



# 子宮頸がん検診の 現状と実際

集団検診としての子宮頸がん検診は日本では1960年代から行われてきました。体の中で最も初期の段階で見つけることができるがんであるにもかかわらず検診を受診しなければ早期発見ができません。近年、若年から性交渉の機会が増えてきたためにヒトパピローマウイルス感染が原因の子宮頸がんを発症する20代、30代の人が増えています。子宮頸がん検診を若い人に受けていただき初期の病変で発見することができれば不幸な子宮摘出をしなくて済むのです。

佐久市立国保浅間総合病院 産婦人科 (☎0267-67-2295) 太田 雄治郎 医長

## 子宮頸がん検診の受診率

日本では、産婦人科の子宮頸がん検診はバ  
ス健診による集団検診が古くからおこなわれ  
て来ました。1961年に宮城県で始まり、次  
第に全国に展開するようになりました。そし  
て世界に先駆けての大規模検診で子宮頸がん  
による死亡の減少が見られることが示されま  
した。しかし、有効性が示されたものの検診  
率が伸び悩んでおり、組織的大規模検診を我  
が国より遅れて開始した欧米諸国に検診率は  
はるかに追い抜かれてしまっています。検診  
率が最も高いのはアメリカで80%を超えてい  
ます。アメリカでは子宮頸がん検診を受けな  
いと連絡が来るような仕組みになっています。  
なぜここまで徹底しているのでしょうか？理  
由は子宮頸がん検診によるがん死の抑制効果  
がはっきりしているからです。日本の子宮頸  
がん検診受診率は20%台にとどまっています。  
高い自治体でも30%程度です。今年になって  
子宮頸がんワクチンの公費による接種が始ま  
り一般の人の関心が高まってきているので子  
宮頸がん検診の受診率の上昇が期待されます。

## 子宮頸がん検診を受けるには

では、がん検診を受けるにはどうしたらよ  
いでしょうか？日本では自治体を実施してい  
る住民健診を受けると自治体から補助が受け  
られます。自治体にもよりますが10000  
20000円で子宮頸がん検診が受けられます。  
20歳から始まり偶数年齢に実施するところが  
多く、2年ごとの検診です。受けられる病院  
が決まっていたり、日程が限られていること  
もありますので広報を見たり市町村に問い合  
わせをしてください。また、政府広報によると  
平成21年度の補正予算によって一定年齢(乳  
がんは40歳、子宮頸がんは20歳)に達した女性  
に無料クーポン券が配布されるようになります。  
20歳より5年ごとに40歳まで子宮頸がん  
検診の無料クーポン券が送付され、乳がん  
検診の無料クーポン券は40歳より5年ごとに

60歳まで送付されることになっています。働  
いている方は会社で健康診断を受ける際にゼ  
ひ子宮頸がん検診を一緒に受診してください。  
また、住民健診や健康診断とは別に、婦人科  
などで子宮頸がん検診を受けることもできま  
す。症状がない場合、費用は全額自己負担と  
なるため、住民健診などより割高です。ただ  
し、出血などの症状がある場合には保険診療  
になりますのでぜひ受診してください。

## 子宮頸がんワクチンと検診

今年から子宮頸がんワクチンの公費による  
接種が開始されました。佐久市では平成23年  
度は中学1年から高校3年までの女子が接種  
対象になっていました(来年から変わる可  
能性があります)。それでは何歳くらいまで  
の方に接種が勧められているのでしょうか？  
日本産科婦人科学会では最も推奨されるのは  
10から14歳、次に推奨されるのは15から27歳、  
そして28から45歳に推奨するとなっています。  
公費による助成が受けられない年齢の方は3  
回の接種で約5万円かかります。気を付けな  
くてはいけません。ワクチンを接種したから  
一生涯子宮頸がんにならないとは言えないこと  
です。子宮頸がんワクチンで予防できるのは  
子宮頸がん全体の60%程度と言われています。  
現在接種されているワクチンでは原因となる  
ウイルス約20種類のうち2種類しか免疫がで  
きないからです。したがって  
子宮頸がんの予防にはワクチ  
ンだけでは完全ではなく、子  
宮頸がん検診が必要なのです。

## 検診の特徴・手順

子宮頸がん検診はほかの臓  
器のがん検診とは異なり、発  
生しやすい部分を医師が直接  
観察して細胞や組織を採取し  
てきます。内視鏡や超音波を  
使う検診とは異なりそれほど

の熟練は必要なく、がん検診の知識のある産  
婦人科医師ならば外来ですぐに行うことがで  
きます。また、がん検診を受診していれば前  
がん状態や初期のがんの状態で発見すること  
ができます。ほかの臓器のがん検診では腫瘍  
が塊として数cm以上なければ発見できないも  
のがほとんどなのに子宮頸がん検診では、病  
気の発生しやすいところを直接見て、擦過す  
ることができるのです。もちろん例外はあ  
り、特殊ながんで見つけにくいものもありま  
す。子宮頸部を綿棒、ヘラ、ブラシなどで擦  
過してスライドグラスに塗布し、細胞を顕微  
鏡で観察するのが細胞診です。子宮口を擦過  
するので少量の出血が起こることがあります。  
痛みはほとんどありません。これで異常が見  
つからなければ子宮頸がん検診はこれで終わ  
ります。細胞診で異常が見つかるとコルポス  
コープという子宮頸部を拡大して観察する機  
械を使って1-2mm角くらいの組織を採取し  
ます。これが組織診です。これを標本にして  
顕微鏡で観察、病理の専門医にがんかどうか  
診断してもらいます。組織診をおこなうとき  
には人によって痛みを感じる場合があります。  
出血が起こることがあるので止血操作をする  
場合があります。

精密検査を必要としなければほとんど痛み  
はなく終了します。初期の病変で見つかれば  
子宮摘出をしなくて済みます。簡単に予防で  
きる子宮頸がんの検診をぜひ受けてください。